
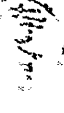
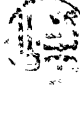
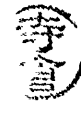





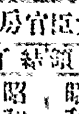



6091

第二二二號

(裁決) 行 決 同 後 長(部)局		送 帶 長(部)局		決 行 指 定 		決 裁 指 定 		保 存 期 限	
				大 臣		件 名		受 領 號	
				委 員		政 務 次 官 政 務 次 官 政 務 次 官		壹 第 一 四 四 七 號 土 耳 古 國 武 官 武 官 武 官 除 幕 式 參 行 件 エルトグルル 號 殉 難 者 紀 念 碑	
長 課 長 課		長 課 長 課		長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參		長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參		起 元 應 (課 名) 在 京 土 國 武 官	
				長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參  		長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參  		審 議 者 	
				長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參  		長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參  		陸 軍	
				大 臣 官 房 大 臣 官 房 大 臣 官 房		主 務 局 課 主 務 局 課 主 務 局 課		昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日	
				昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日 昭 和 年 月 日	

壹
一四四七

政務官回付(決行前)

乙

(決行後)

審議者

陸軍

陸

軍

副官より第四師團參謀長へ通牒（陸著）

本件ニ関シ客年九月四日附陸著第五四一號ヲ以テ通牒致シ置キタル處近ク右紀念碑竣工ヲ為除幕式興行ノ趣ヲ以テ在東京土耳其國大使館除武官より別紙ノ通中越シタルニ付一行該地出向ノ節ハ便宜供與方以テ配相煩度通牒ス

陸書第二〇五七號 昭和十二年四月十五日

次官より内務次官

副官より憲兵司令部總務部長へ通牒

本件ニ関シ在東京土耳其國大使館附武官より別紙ノ通中越シタルニ付一行該地出向ノ節ハ便宜供與方可然取計ヒ相煩度

陸書第二〇五七號 昭和十二年四月十五日

副官より在東京土耳其國大使館附武官へ回答

四月九日附第三一號貴翰正申越ニ係ル首題ノ件
了承右ニ夫々前條ノ向ハ通報致シ置キタルニ依テ
承知相成度及回答候也

陸軍第二〇五七號 昭和十二年四月十五日

陸軍

AMBASSADE DE TURQUIE,
TOKIO
L'ATTACHÉ MILITAIRE
No.

軍務

第三一〇号

陸軍省 陸軍部 第一四四七 號

昭和十二年四月十日
陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 官印

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 官印
12.4.10 外務省 陸軍課

Expédition
MILITAIRE

除幕式施行ニ関スル件

昭和十二年四月九日 土耳其大使館附武官

参謀中佐 ルシエネエ、エルデルヒエン

陸軍大臣 杉山元 殿

昭和十二年八月二十八日第六二号ヲ以テ通牒仕候

陸軍

土耳其巡洋艦エルトグルル号殉難者紀念碑

建設工事ハ日本官民ノ中盡力ニ依リ豫定通

リ着々進捗シ愈々来ル六月三日畏クモ嘗テ

天皇陛下親シク此地ニ行幸被遊候紀念日

ニ地元和歌山縣下檜野崎燈台附近殉難

者靈地ニ於テ大坂近東貿易組合、全日土

貿易組合等ノ主催ノ下ニ盛大ナル除幕式ヲ

挙行仕度當大使館ニ於テハ大使以下館員

全部並ニ小官及補佐官、海軍留學生將校モ

参列仕テ候就テハ何卒諸事格別ノ御援助

賜リ度及御願候也

1913

AMBASSADE DE TURQUIE
TOKIO

L'ATTACHÉ MILITAIRE

東亞
陸軍省

陸軍大臣 杉山元閣下

書留

書留

公用

定橋 736
神

1614

代々木山谷
ル
レ
子
左

1915

注意

(本密案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

政務次官回付 決裁前連帶
參與官回付 決裁後連帶

決行(決裁)後
回覧課名

審議課

保存期限

決裁指定

決行指定

受領番 壹第 一四四七 號				件名 五月廿五日 維唐 雜子 魂碑 除幕式 大臣代理ノ件	
大臣 毛 吉		政務次官 次官 參與官		起元廳(課)名 大臣代理ノ件	
主務局長 局長		高毅 副官 主務副官 書記官		審議課 審議者 書記者	
昭和三十二年五月三十一日 昭和三十二年五月三十一日 昭和三十二年五月三十一日		昭和三十二年五月三十一日 昭和三十二年五月三十一日 昭和三十二年五月三十一日		昭和三十二年五月三十一日 昭和三十二年五月三十一日 昭和三十二年五月三十一日	
領受 提出 領受 了結		局長 局長		局長 局長	

31,500

1916

副官より第四師團留守長陸一電復

檉

陸軍部

五月三日紀州檉野崎之於今土目其軍

艦遭難吊魂除其申之当リテハ貴部

職員ヨリテ陸軍次官代理トシテ参拜セシ

メ花環ヲ供ハシテ度儀ナキ

陸軍部

二一

昭和十二年五月廿一日

發信 濟 費

昭和拾陸年七月拾六日

NIPPON
da
ERTUGRUL ANITI
açilma töreni
HATIRASI
3-6-1937



號ルルグトルエ艦軍其耳土
念記武幕除碑魂吊

日三月六年二十和昭 崎野樺州組 於

土耳其軍艦ニルトグルル號殉難將士弔魂碑由來記

願れば明治廿三年、土耳其國政府はオスマン提督を使節として軍艦ニルトグルル號を派遣し、明治大帝に敬意を表し奉つた。乗組員提督以下六百九名。日本國民の熱誠なる歡迎裡に滯留三ヶ月、同艦は歸途についたのであるが、同年九月十六日南紀樞野崎沖を通過するに際し、颶風も荒天に會し、ゆくりなくも海上に漂流、つひに岩礁に乗りあげ、船艦は怒濤に破碎された。乗組員の殆ど全員、敢へなくも異郷の鬼と化したもの五百四拾名。千載の恨を此處に止めた。悲報天聽に達するや、明治大帝にはいたく哀憐を憐し給ひ、侍醫を差遣し給はつた。皇后陛下亦被服を遭難士卒に下賜され、且看護婦を派遣して篤く生存者に撫恤を垂れさせ給はつた。

間もなく生存者は觀意により比叡、金剛の二艦により土國に送還せしめられた。遺骸の收容に、生存者の救護に、日夜寢食を忘れて奔走した當時の紀州大島村民の義舉は今なほ土耳其國民の語り草になつてゐるところである。かくて、收容されたる殉難將卒の遺骸は同村民によつて樺野崎燈臺附近絶景の地に懇に合葬されたのであるが、これ即ち現在の靈地である。

自來星移り年變りて茲に五十年、其間村民の墳墓を愛護すること深く、弔祭に關しても常に意を用ひ、十年毎に盛大なる祭典を舉行して殉難將士の英靈を弔ふこと今日にいたつた。

明治廿四年二月、徳川茂昭侯題字「土耳其軍艦遭難者之碑」が建設された。他に二基あり、一はオスマン提督以下將卒の墓標、一は建碑に干與したる特志者の姓名を刻したもので、この三基はすべて有志の寄附により成つたものである。

昭和三年八月五日、大阪日土貿易協會は殉難將士の追悼祭を執行、同墳地に弔魂碑の建設に着手し、翌四年四月五日之を竣工した。

昭和四年六月三日畏くも、聖上陛下には親しく墳墓に御臨幸あらせられ給うた。

昭和十一年駐日土耳其大使ヒュスレヴ・ゲンデ氏の斡旋により土耳其國政府は同靈地を改修することに決定、同年十月二十日定礎式を執行した。茲に和歌山縣當局の援助により、生きて祭げる日土親善を雄々しく死して永劫となせる榮譽ある殉難將士のため、更に新たに土耳其國政府により記念塔が建設された次第である。

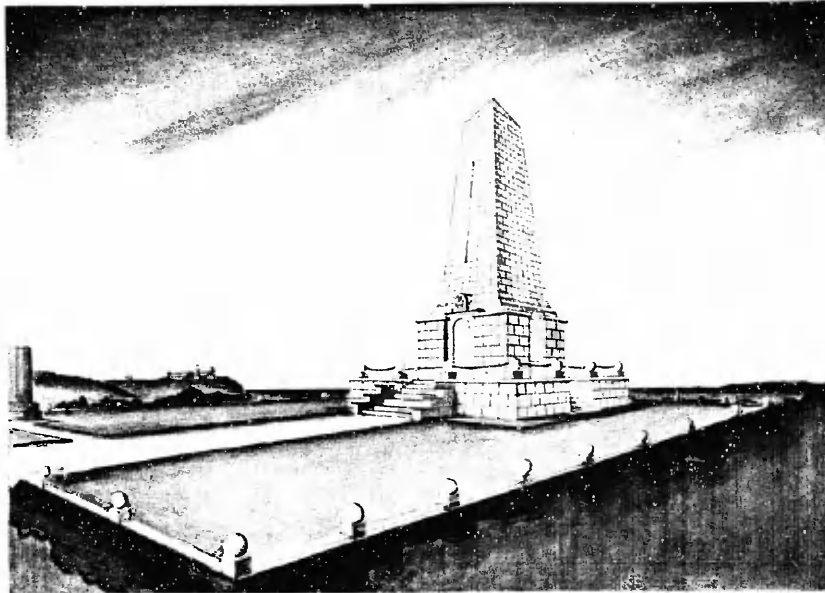
昭和十二年六月三日の吉日を卜し、除幕式執行、續いて日本官民の主備による厳かなる慰靈祭が舉行された。

當日、日土協會總裁高松宮殿下にはこの式典に御便を差遣し給はつた。洵に感激の極みである。

1619

1620

昭和十二年六月三日、土耳其國政府建之



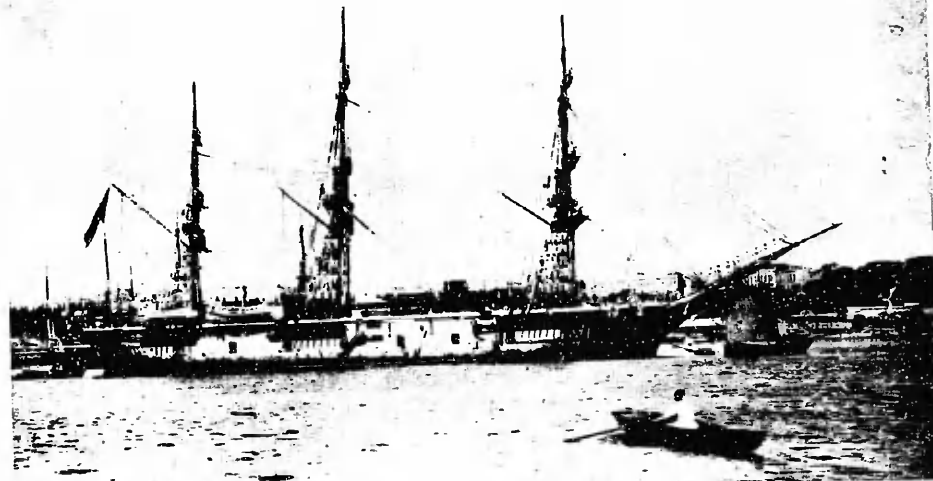
紀州樫野崎に於ける軍艦エルトグルール砲台碑

Türkiye hükümeti tarafından 3- 6- 1937 de yaptırılan ERTUĞRUL şehitliği anıtı

S.M.Emperor Meiji nezdine gönderilen:
ERTUĞRUL firkateyni

るたれらせ遣派めたる奉し表を意敬に
號ルールグトル艦軍

高松郵便



1889 senesinde Türkiye hükümeti tarafından
S.M.İmperator Mevci nezdine gönderilen
ERTUĞRUL firkateyni

明治二十三年三月より土耳其政府より贈られたる
海軍少佐の乗るに由る海軍少佐の乗るに由る
海軍少佐の乗るに由る海軍少佐の乗るに由る

1619

1620

開



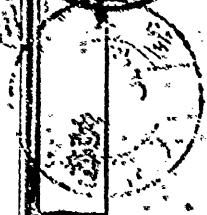
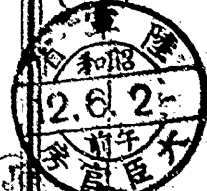
陸軍省



1291

陸軍省
第四四六

陸軍省



陸軍

平文電報譯

六月一日午前後

四時一分著

第 二 號

陸軍省
寺倉正三宛

發信者參謀部代理

陸普第三一號返

佐藤參謀ヲ參拜セシム

花 環

處置ス

陸軍電信著信紙 1622

文	本	定指	局發	局著
			官 三八字	一七
			オウサカフテウナイ	五分
			五四	四
			コ三時一〇分	時
			リクブン	分
			ンセウナイ	
			「テラクラシヨウ	
			ウソウ	
			ウヲサン	
			バ	
			イセシム	
			ハナハシヨチ	
			スミサコ	
			ロクキ	
			ハ	

事記

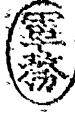
代理



法

交付日 昭和十一年六月一日
交付場所 東京市千代田区千代田

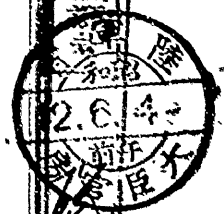
陸軍省



次官

閣

第十四回 第二



軍

平文 電報譯

三月三日 午前 九時五十分 著

第 一 號

杉山陸軍大臣 宛 發信者之耳古大使ゲレテ

御祝電感謝ニ堪エス御蔭ヲ持以テ盛大

ニ除幕式終了重テ御禮申上ク



陸軍電信著信紙 1624

注意

又右記の如きものは、本紙に記入せず、
 又右記の如きものは、本紙に記入せず、

陸軍省

文

本

定指

局發

局著

ニニ

ゴ

九時五〇

技手ワダ

著信著發

七七一キムロマルシオミサキムセン 五 〇八時四五分

リククンセウスヤ ヤマリククンヤイジン

事記

ゴシユクデ ンカンシヤニタヘズ オカゲ ヲモツテセイダ イキリニシ ヨマクシキ

シユウリヨウ「カサネテオンレイモウシアグトルコタイシゲレヤ

印附月



1625



陸軍省文
電報譯
第...號

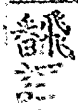
陸軍省副官宛

陸軍省第四師團參謀長代理

三日土耳其古軍艦遭難記念日除幕式ハ

莊嚴裡ニ終了參謀ヲシテ大臣ノ代拜薦サシ

メタリ



和



第...號

軍

陸軍電信著信紙 1629T

注意

又付當日受信セシメテハ毎日午後八時入ル
 又付時對ノ受信セシメテハ毎日午後八時入ル

陸軍省

文	本	定指	局發	局著
			七九中	一ニ
			オウサカフテウナイ	〇分
			三七	〇分
			セ一〇時二五分	〇分
			リクク	
			ンセウフクカン	
			三ヒトルコク	
			ンカンソウナンキネンヒシ	
			ヨマクシキハンウゴ	
			ンリニシユウリヤウサ	
			ンホ	
			ウヲシテ	
			イジ	
			ンノ	
			イハイナサシメタリ	
			四シサンホ	
			ウチヤウ	
			イリ	

事記



〇分

〇分

〇分

〇分

〇分

1627



閣

急

第一機密合第一九四七號

昭和十二年四月三十日

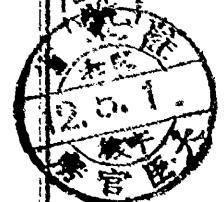
外務次官 堀内 謙

陸軍次官 梅津 美治郎 殿

和歌山縣大島村ニ於ケル土耳其軍艦遭難碑除
幕式ニ關スル件

本件ニ關シ今般在京「ゲレデ」土耳其國大使ヨリ佐藤外務大臣宛別
紙譯文ノ通近ク和歌山縣東牟婁郡大島村ニ竣工ノ答ナル土耳其國軍
艦「エルトウル」號遭難（明治二十三年九月十六日）犠牲者記
念碑除幕式舉行ノ日取及之ニ關スル同大使一行ノ旅程ヲ通知越スト
共ニ右關係官廳へ周知方依頼シ來リタルニ付此段通報申進ス
追テ内務省ヨリ關係地方官憲へ通報方御取計相煩度シ

軍務課



別紙添付



外務省

(譯文)

以書翰啓上致候陳者一九三六年八月二十七日附第二七九七、一〇一
 號期信(昭和十一年十月遺難記念碑定礎式ノ爲土耳其國大使和歌山
 縣下へ旅行ニ付通知シ來レルモノナリ)ニ關シ左ノ通閣下ニ通報ス
 ルノ光榮ヲ有シ候

大島村ニ於ケル「エルトウヤル」號遺難者記念碑建設作業ハ近ク終
 了シ右記念碑除幕式ハ六月三日舉行セラルヘク候

本使ハ右式典ヲ主宰スル爲左ノ通當大使館全館員及帝國海軍ニ於テ
 修業中ノ士官二名ヲ伴ヒ五月三十一日(月曜日)夜離京可致候

商務參事官 レシヤト、ケリモル氏

陸軍武官官 リニシユチニ、エルデルヒユン中佐

大使館二等書記官 スレディン、ナジ、アクンジ博士

同 ニザメディン、エレネル氏

陸軍武官輔佐官 ハイリ、サネル大尉

外務省

海軍 大尉

ゼキ、バヤド氏

同

シエレフ、カラビナル氏

大使 館通譯

近江 谷 氏

一行ハ六月一日大阪滞在、二日大島ニ向ケ出發シ四日東京ノ爲大阪ニ到着ノ豫定ニ有之候

右閣下ニ通報スルト共ニ兩國友好關係上歴史的ナル最初ノ關係ヲ記念スヘキ右除幕式ニ付關係文武官憲ニ對シ周知方御依頼申進候
本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

一九三七年四月二十二日

ヒュスレフ、ゲレデ

外務大臣 佐 藤 尚 武 閣下

外務省

陸軍

花輪代請求ノ件



昭和十二年六月三十日

第四師團副官 山中萬次郎

陸軍省副官 寺倉正三 殿

トルコ軍艦遭難記念式ニ贈呈セラレタル花輪代別紙ノ通り支拂タルニ付御序ノ切御送金被下度御依頼申上候

追テ右八日時ニ餘裕ナク然モ遠隔ノ地ニ送附シテ兎モ角モ間ニ合ハセシムル爲メ先方ニテ組立ニ要スル職工ノ派遣並ニ選賃等ヲモ負擔シテ處置セシ爲メ特ニ經費ヲ要シタルニ付申添フ

1891

貨物の御用命はせニヤハ (書主佐藤五三四五)

No. 8660

領收證

一金參拾貳月拾錢

但シ別紙請求書通り

右正ニ領收候也

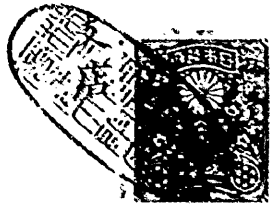
昭和12年6月29日

大阪市西區物下通一丁目

株式會社 錢屋商會大阪

陸軍省副官部様

御計



候ニ封紙ハノモキナ印者投及印社ニ殿本

1632

✓

235

昭和拾貳年六月廿二日

陸軍省副官部

御中



大阪市西區粉下通一丁目

株式會社 錢屋商會 大阪支店

電話 上區 〇五二四 五番

一金尺五拾毫圓五拾錢也

內 譯於紀州大島トコ軍艦遭難紀念式御用

用途品	目長	巾	數	量單	價	金	額
花	綱		一對			二〇〇	〇

株式會社 錢屋商會 大阪支店

